

# 「レコードと音楽による町づくり」事業の経過

18.01.19

## 1 きっかけ

レコード館を中心にして「レコードと音楽の町づくり」事業を展開していますが、この事業の起りは「一枚のレコード」という町内の音楽愛好家達の次のような発想がはじまりでした。

「レコードをこのままにしておくと散逸してしまい貴重な歴史的価値のある音楽文化が間違なく消滅する。今、消え去ろうとしているレコードを世界的規模で集めて町づくりができたら、きっと文化の香りの高い町が造られるだろう。  
それは21世紀に生きる子供たちのためにもすばらしいことだろう。」

・新冠町が日本中からレコードを収集

・レコードの価値を見抜いた発想の豊かさ

・行政の枠の中からは出てこない

## 2 時代背景



この様な発想が生まれた平成元年頃は、音楽業界では大手レコード会社の新譜はCDが主流を占め、そろそろレコードの生産が打ち切られようとしていた時期です。

行政を取り巻く状況としては、竹下内閣により“ふるさと創生事業”として全国の地方自治体に一億円が配分され、地域独自の個性的な町づくりが求められた時期でもありましたし、新冠町においては新首長が誕生し新しい町づくりを模索していた時期でもありました。

## 3 事業化にむけて

このような情勢の中で、町内音楽愛好者達の“レコードを数限りなく集めて新冠町をレコードのメッカとしたい”という発想が行政に取り上げられ「レコードと音楽の町づくり事業」としてまとめられ、平成3年度には国土庁のモデル事業\*に指定され、いよいよ夢の実現に向けてスタートをきる事となりました。

\*「平成3年度過疎地域活性化推進モデル事業」

## 4 「レコード」という町づくりのコンセプトの完成

RECORDのRE(レ)には「再び」、CORD(コード)はラテン語で「心」と言う意味があります。

この様な意味合いから「レコード」と表記し「わすれかけている大切なものに帰ろう」とか「心の記憶を呼び覚ます」というような意味を持たせています。

従って、「レコードと音楽による町づくり事業」とは、単にレコードを収集することを目的にするのではなく“人々の思い出や心”を新冠に集めようとする町づくりです。

・町内～当初はレコードで飯が喰えるか

・視察～新冠で何故レコードか

・マスコミ～ユニーク性、関心高い

・音楽関係～音源、ジャケット引き合い

## 5 今後の事業展開

### ①データベースの重要性

データベース再構築

インターネットで公開

### ①レコードの収集と整理

レコード館ではレコードの寄贈を全国に呼びかけており、現在レコード館には、寄贈者件数で2,639件、68万枚のレコードが収集されています。

この内、データベースに整理されているレコード件数は約26万枚となっています。レコード館では「レコード」の考え方の実践として、寄贈されたレコードの中には寄贈して下さった方たちの思い出もつまっていると考えておられ、この様なレコードを預かることは、想い出も一緒に預かることだと考えて、寄贈者毎に分類をし、レコード・バンクで大切に保管し、活用していきます。

### ②音楽文化の保存継承と情報発信

情報の伝達手段が一部に独占されていた時代にあっては情報は中央から地方へと一方的に流れていきましたが、現在はコンピューターが各家庭にまで浸透し、インターネットを利用して個人でも自由に世界に向けて情報を提供できるようになってきました。レコードの生産は既に中止されレコード会社を始めとした音楽業界でもレコードの保存、収集はまったく行なわれておらず散逸、破棄にまかされている状況です。

国会図書館においては昭和24年からレコードの収集は行なわれているが、それ以前のレコードは無く、また、収集されたレコードは体系的に整理されているとも言い難い状況です。

この様な中で黎明期から全ジャンルを網羅してレコードを収集し保管、整理しているのはここ新冠町のレコード館だけという状況です。

20世紀の音楽文化そのものであるレコードを、大切に保管し、

レコード＝「新冠にしか無い音源」を

新冠町の財産として、地方から中央へ逆転、あるいは地方も中央もないインターネットの世界を通じ情報発信を行なっていきます。

### ・誇れるまちの魅力

案外と無いものだ

今まで

自然(どこにでもある)

サラブレッド(新冠だけではない)

これから

レコード館

### ③レコード館は生涯学習センター

町民の方々に少しでも多く芸術や文化に接する機会を作り、豊かで、うるおいのある生活を営んでもらうための活動を行なっています。

また、今までの新冠町には無い、新しいものをこのレコード館での活動を通して作り上げて行きたいと考え、町民を対象にした数々の育成型事業を実施していきたいと考えています。